

平成20年12月期 決算短信

平成21年2月13日

上場会社名 株式会社 ベストブライダル
 コード番号 2418 URL <http://www.bestbridal.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長
 定時株主総会開催予定日 平成21年3月27日
 有価証券報告書提出予定日 平成21年3月27日

(氏名) 塚田正之
 (氏名) 藤谷知治
 配当支払開始予定日

TEL 03-5464-0081
 平成21年3月30日

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 20年12月期の連結業績(平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年12月期	31,073	10.0	6,077	26.5	5,043	11.2	2,453	16.6
19年12月期	28,259	24.1	4,805	31.6	4,534	31.1	2,104	18.8

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
20年12月期	30,065.64	—	28.7	15.3	19.6
19年12月期	25,792.37	—	31.7	16.2	17.0

(参考) 持分法投資損益 20年12月期 △33百万円 19年12月期 14百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年12月期	32,427	9,490	29.3	116,305.05
19年12月期	33,386	7,594	22.7	93,065.69

(参考) 自己資本 20年12月期 9,490百万円 19年12月期 7,594百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年12月期	5,389	△2,055	△3,639	6,164
19年12月期	5,331	△10,490	7,359	6,625

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					配当金総額(年間)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
19年12月期	—	1,000.00	—	2,000.00	3,000.00	244	11.6	3.7
20年12月期	—	2,000.00	—	3,000.00	5,000.00	408	16.6	4.8
21年12月期(予想)	—	2,500.00	—	2,500.00	5,000.00	—	—	—

3. 21年12月期の連結業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	14,800	3.4	2,200	△8.7	2,000	△3.6	1,100	5.0	13,480.39
通期	32,800	5.6	6,200	2.0	5,900	17.0	3,200	30.4	39,215.69

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 1社 (社名) 除外 1社 (社名 合同会社YMPJを営業者とする匿名組合)
 詳細は、9ページ「企業集団の状況」をご覧ください。
- (2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの)
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
 ② ①以外の変更 無
- (3) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 20年12月期 81,600株 19年12月期 81,600株
 ② 期末自己株式数 20年12月期 1株 19年12月期 1株

(参考)個別業績の概要

1. 20年12月期の個別業績(平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(1) 個別経営成績 (％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年12月期	30,319	10.3	5,173	23.1	4,803	18.1	2,213	2.1
19年12月期	27,478	24.7	4,203	30.2	4,065	29.6	2,167	30.4

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円 銭		円 銭	
20年12月期	27,123.39		—	
19年12月期	26,567.98		—	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
20年12月期	31,371		9,157		29.2	112,220.55		
19年12月期	32,643		7,348		22.5	90,054.41		

(参考) 自己資本 20年12月期 9,157百万円 19年12月期 7,348百万円

2. 21年12月期の個別業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(％表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期累計期間	14,500	3.8	1,900	△9.8	1,800	△12.0	900	△19.8	11,029.41	
通期	32,100	5.9	5,300	2.4	5,000	4.1	2,700	22.0	33,088.24	

*業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、業況の変化等により、異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は添付資料の3ページを参照して下さい。

本日、平成20年12月期の配当予想の修正(増配)につきまして、別途開示しております。

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

① 当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国の経済環境は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界経済の減速の影響を受け急速に企業収益が悪化、それまで堅調であった景気は一転して大幅な減速感の中で推移いたしました。

そうした環境下にあっても、当社グループが事業を展開するブライダル市場におきましては、平成20年の婚姻組数が73万1,000組と平成19年に比較し、1万1,000組増と推計されております（厚生労働省「人口動態統計」）。少子化時代にあっても安定的に推移するブライダル市場におきまして、当社グループはゲストハウス・ウエディングにおける新しい価値の創造に常に積極的に取り組み、高品質かつ魅力ある店舗づくりとサービスの提供、また、業務効率の改善にも積極的に取り組み、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高31,073百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益6,077百万円（同26.5%増）、経常利益5,043百万円（同11.2%増）、当期純利益2,453百万円（同16.6%増）となりました。

これを事業部門別に見ますと、各事業部門における業績は次のとおりであります。

a. 国内事業部門

前連結会計年度に開業いたしました新規店舗（3店舗）が業績向上に大きく貢献し、また、既存店舗におきましても概ね順調な施行実績で推移したことにより、売上高は大幅に増加いたしました。

この結果、同部門の売上高は27,931百万円（前年同期比15.0%増）となりました。

なお、当連結会計年度末の事業所数は、前連結会計年度に比べ2店舗（2会場）増加し、17店舗（43会場）となりました。

b. 海外事業部門

ハワイビジネスにおきましては、日本からの直行便の減少等によりマーケットが縮小する一方で、企業間競争は激化し、厳しい事業環境が継続しておりますが、当社グループは差別的優位性を持つための新しいサービスの提供等により、収益基盤の強化を図りました。しかしながら、全般的な消費低迷の影響もあり、同部門の売上高は、3,141百万円（前年同期比20.7%減）となりました。

なお、インドネシア（バリ島）におけるビジネスにつきましては、ほぼ当初の計画どおり順調に推移しております。

② 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、金融不安に端を発した景気後退に伴う市場の急激な冷え込み、また、為替相場の急激な変動により、事業環境は厳しさを増すとの認識を持っております。

当社グループにおきましては、競争力ある商品開発を積極的に進め、常に新しい価値づくりに注力していく所存であります。さらに、効率的な店舗展開と人材育成にも取り組みつつ、コスト競争力の強化と収益力の向上を目指してまいります。

なお、当連結会計年度末における受注残高は、5,296件（前年同期比7.7%増）と引き続き好調であり、平成21年12月期の連結業績及び単体業績の見通しにつきましては、それぞれ以下のとおりであります。

	連結	単体
売上高（百万円）	32,800	32,100
営業利益（百万円）	6,200	5,300
経常利益（百万円）	5,900	5,000
当期純利益（百万円）	3,200	2,700

(2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ958百万円減少して、32,427百万円となりました。これは主に、現金及び預金が747百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末における負債は、前連結会計年度末に比べ2,854百万円減少して、22,937百万円となりました。これは主に、借入金が2,751百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末に比べ1,896百万円増加して、9,490百万円となりました。これは主に利益剰余金の配当が326百万円あったものの、当期純利益を2,453百万円計上したことによるものであります。

② キャッシュフローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ461百万円減少し、6,164百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの変動要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は5,389百万円（前年同期比1.1%増）となりました。これは主に、法人税等の支払額が増加したものの、税金等調整前当期純利益が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,055百万円（同80.4%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3,639百万円（前年同期は得られた資金7,359百万円）となりました。これは主に、短期借入金が減少したことによるものであります。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー関連指標の推移は次のとおりであります。

	平成17年12月期	平成18年12月期	平成19年12月期	平成20年12月期
自己資本比率 (%)	24.2	25.1	22.7	29.3
時価ベースの自己資本比率 (%)	202.3	142.4	45.5	33.0
債務償還年数 (年)	4.3	2.6	3.6	2.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	12.1	17.8	16.1	16.0

(注) 自己資本比率 : 自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額／総資産

債務償還年数 : 有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー／利払い

1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要事項と認識しており、経営基盤の強化を図りつつ財務状況、利益水準等を総合的に勘案し、内部留保の充実を考慮しながら毎期の業績等に応じた弾力的な利益還元を行っていく方針であります。

当期の株主配当金につきましては、株主の皆様の日頃のご支援に報いるため、期末配当金として1,000円増配し、1株当たり3,000円といたしました。なお、昨年8月に1株当たり2,000円の間配当を実施いたしましたので、当期の年間配当金は1株当たり5,000円となります。

また、次期の株主配当金につきましては、年間で1株当たり5,000円（うち、1株当たり中間配当金2,500円）を予定しております。

(4) 事業等のリスク

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる事項を記載しております。当社グループとして必ずしも事業上のリスクとは考えていない事項についても、投資判断の上で、あるいは当社グループの事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。

なお、文中における将来に関する事項の記載は、発表日現在において当社グループが判断したものであり、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

① 事業の特徴について

a. サービスについて

当社グループは、常に時代のニーズやファッショントレンドを綿密に分析し、社内に蓄積した経験・ノウハウと多くの協力会社による高水準のサービスを融合させ、飲食・サービスにおきましては、店舗ごとに専門のシェフとサービススタッフを配置することにより、お客様の趣味や趣向を高いレベルで実現し、最新のウェディング・スタイルを提供することを目指しております。

しかしながら、時代のニーズやファッショントレンドに当社グループのサービスが対応できない場合や、当社グループの望むレベルの協力会社、シェフ等が確保できずに十分なサービスが提供できない場合には、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

b. 人的資源について

当社グループは、今後の更なる業容拡大及び業務内容の多様化に対応するため、新卒の採用活動を積極的に行い、また、教育研修制度を確立することで、営業・管理の各部門において、一層の人員の強化を行ってまいります。しかしながら、事業規模の拡大に応じたグループ内における人材が計画どおりに確保できない場合には、競争力の低下や一層の業容拡大の制約要因となり、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。

② 当社グループの属する市場について

結婚適齢期を迎える層は、厚生労働省の人口動態調査からみて、緩やかに縮小していく傾向にあり、今後、ブライダル市場全体の市場規模が縮小した場合には、当社グループの業績は影響を受ける可能性があります。

ゲストハウス・ウェディングは、新しいウェディング・スタイルとして注目され、ブライダル市場における認知度の上昇とともに、シェアが拡大しており、今後も需要の拡大が見込まれると考えております。こうした市場の成長性に着目し、既存のホテルや専門式場等によるゲストハウス・ウェディングへの進出や、これまでにない新しいサービスの提供、異業界からの新規参入等が予想されることから、他社との競争が激化した場合には、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

③ 経営成績及び財政状態について

a. 業績の季節変動について

当社グループの売上高は、ゲストハウスの新設時に増加するほか、4月～6月・10月～12月の婚礼シーズン（当社グループ決算においては第2四半期及び第4四半期）に集中する傾向があります。

四半期別の業績（平成20年12月期）

	第1四半期 (対通期比率)	第2四半期 (対通期比率)	第3四半期 (対通期比率)	第4四半期 (対通期比率)
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	6,163 (19.8%)	8,148 (26.2%)	6,675 (21.5%)	10,085 (32.5%)
営業利益	634 (10.5%)	1,776 (29.2%)	729 (12.0%)	2,937 (48.3%)

b. 借入金等依存度が高いことについて

当社グループはこれまで新規ゲストハウスを建設するにあたり、建設費用や敷金・保証金等の投資資金を主として金融機関からの借入等により調達しているため、総資産に占める有利子負債の比率が高い水準にあります。有利子負債残高は、平成19年12月期末19,050百万円、平成20年12月期末15,862百万円となっており、総資産に占める有利子負債残高の比率は、平成19年12月期末57.1%、平成20年12月期末48.9%と借入金等依存度が高い水準にあります。なお、売上高に対する支払利息の比率は、平成19年12月期1.2%、平成20年12月期1.1%となっております。

今後、金融情勢が大きく変動し金利水準が上昇に転じた場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

c. 海外情勢

当社グループは、主に日本人の方を対象として、米国ハワイとインドネシア（バリ島）におきまして海外挙式のサービス事業を展開しております。平成20年12月末現在、ハワイにおきましては、直営チャペル4ヶ所、独占使用权を有する教会2ヶ所、また、バリ島におきましては、直営チャペル2ヶ所を展開し、それぞれのマーケットにおける婚礼プランを、日本国内に5ヶ所とハワイに1ヶ所の合計6ヶ所設置している海外挙式の窓口であるサロンを通じて販売しております。当連結会計年度における海外売上高は3,008百万円（売上構成比9.7%）であります。このため、関連地域における政治情勢や経済動向等の変化、戦争・テロ・大規模な自然災害などの事象が発生した場合、予約のキャンセル等により当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

Best Bridal Hawaii, Inc. 及びPT. Tirtha Bridalは、当社が受注した海外ウエディングの施行を請負う他、現地の顧客に対しても挙式の受託活動を行っております。また、Best Bridal Korea Inc. は、韓国のブライダル事業進出に向けて、ゲストハウスの建設を行い、Marizin Inc. との間で賃貸借契約を締結いたしました。これらの事業活動が、今後当社の想定どおり進捗しない場合（ハワイに見られる海外挙式需要の低迷等）は、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

d. 為替変動の影響について

当社は、外貨建子会社貸付金等の外貨建債権を保有しており、また、海外子会社についても外貨建債務を保有しているため、為替レートが大きく変動した場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

e. 食の安全性について

当社グループは挙式宴会並びにホテル内におけるレストラン営業を行っているため、食品衛生法による規制を受けております。衛生面に関しましては、食中毒等の発生により営業停止等の事態が生じないよう、店舗並びにレストランごとに衛生管理者を選任し常に安全性と品質の確保に万全を期しておりますが、当社グループの取り組みの範囲を超えた重大な品質トラブルが発生した場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

④ 特定の経営者への依存について

当社の代表取締役社長である塚田正之は最高経営責任者であり、当社グループの経営方針や戦略の決定等、事業活動上重要な役割を担っております。塚田正之に対し事業運営及び業務遂行において過度に依存しないよう、経営会議の充実・権限の委譲等により経営リスクの軽減を図るとともに、各分野での人材育成強化を行っておりますが、不測の事態により、塚田正之が職務を遂行できなくなった場合、事業推進及び業績が影響を受ける可能性があります。

⑤ 法的規制について

国内事業部門におけるゲストハウスの建設・改装につきましては、建築基準法、消防法、下水道法等による諸規制と、建物構造や建設地域によっては、排水・騒音対策等の各種条例による規制を受けております。建設・改装の際には、一級建築士や建設会社に業務を委託し構造上のチェックを行うとともに、当社マーケティング部が直接チェックを行い、また消防署のチェックも受けておりますが、上記の法的規制に抵触した場合、ゲストハウスの建設計画が遅延したり運営に支障が生じる可能性があります、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

当社グループの各海外サロンは、旅行業法に基づき旅行業の登録（第一種業務）を行っておりますが、旅行業法に違反し登録の更新が不可能となったり登録が取り消しとなった場合には、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

さらに、当社グループにおきましては、旅館業法に基づくホテル営業を行っており、また、婚礼前美容サービスの提供は、特定商取引に関する法律の規制を受けております。

⑥ 設備投資及び新規建設リスクについて

a. 現状のゲストハウスについて

事業所名	日本橋	白金	横浜	大阪	仙台	星ヶ丘	新浦安	大宮	青山
ゲストハウス数	1	2	4	5	3	2	5	4	2
事業所名	市ヶ谷	丸の内	心斎橋	八事	鴨川	千葉	赤坂	お台場	
ゲストハウス数	1	1	2	4	3	2	1	1	

当社グループは、当連結会計年度末現在、国内に上記17店舗（43ゲストハウス）を展開しておりますが、全て社内の建築部門により企画された「上質」かつ「本物」の施設づくりを目指しております。

特に、当社グループ独自の店舗形態として、ひとつの大規模敷地内に複数のゲストハウス（会場）を配する大型店舗があります。同一敷地内に、複数のゲストハウスを建設することにより、多様なコンセプトと収容人数のゲストハウスを配することで、お客様の多様なニーズ・嗜好にお応えし、高い集客力を可能としております。

b. 今後の方針について

今後につきましても、綿密なマーケティング分析による施設企画、出店地選定を行った上で、現在、多くの需要が見込める首都圏・関西圏・中京圏を中心に、効率的な出店を行っていく方針であります。

また、既存のゲストハウスにつきましても3年程度のサイクルでリニューアルを行い、常に新しさと高いデザイン性を維持することで、顧客獲得率の安定化を図っております。

c. 店舗出店に関するリスク

当社グループが運営する直営店舗の用地については賃借契約を締結することが基本であり、出店にあたり保証金を差し入れ、内・外装等の初期費用を投じており、出店後も人件費及び家賃等が継続的に発生いたします。そのため、出店が増加すれば保証金の差し入れ額及び関連費用は比例して増加いたします。当社が想定していた運営期間よりも短期で閉店せざるを得ない状況となった場合には、違約金の支払いが発生する可能性があります。また、賃貸人の倒産等によって保証金の全部又は一部が回収できなくなる可能性があります。

d. 潜在リスクについて

店舗建設に適した物件（主に土地）やオペレーションのための人材を確保することが出来ず、新規及び既存のゲストハウスが顧客の支持を得られない場合、今後の当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。また、大型店舗の建設にあたっては、大規模な出店地を確保するため、建設に適した物件を確保することが出来ず、出店計画が予定どおり進捗しなかった場合、事業推進に制約を受け、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

当社グループは従来、店舗用地につきましては、原則賃借としてまいりましたが、出店計画をより確実とするために賃借に限らず、土地の取得ならびに流動化も選択肢の一つとしてゲストハウスの建設を推進する方針であります。出店を検討する際は経営の効率化とともに、財務体質の悪化を誘発しないことを優先する方針ですが、土地を保有することで財務体質が影響を受ける可能性があります。

今後、業界の景気動向や経営環境の変化等によって、当社グループが保有する固定資産の実質価額が著しく下落した場合には、減損処理の実施によって、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

e. 特別目的会社 (SPC) について

当社グループは、白金事業所 (合同会社白金・SPC) において、特別目的会社 (以下、SPC) を活用しています。当社は、当該SPCに対して匿名組合出資を実施しており、このような匿名組合出資に関する連結の範囲につきましては、「投資事業組合に対する支配力基準及び影響力基準の適用に関する実務上の取扱い」 (実務対応報告第20号 平成18年9月8日) に従い、個別に支配力及び影響力の有無を判定し決定しております。合同会社白金・SPCを営業者とする匿名組合は子会社に該当せず、連結の範囲に含めておりません。

当社は、連結の範囲決定に関しては未だ会計慣行が定まっていない状況であると認識しており、今後新たな会計基準の設定や、実務指針等の公表により、連結範囲決定について当社が採用している方針と大きく異なる会計慣行が確立された場合には、当社の連結範囲決定方針においても変更が生じ、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、合同会社白金・SPCが保有する信託受益権の合計額は2,880百万円あり、金融機関からの借入金は2,620百万円あります。

⑦ 顧客情報管理について

当社グループはウェディングの受注活動を通じて、多くのお客様の個人情報を取扱うこととなります。そうした個人情報の機密保持につきましては、顧客ファイルは施錠可能なロッカーに保管、電子情報はパスワードの設定によるセキュリティ対策等を整えることで漏洩リスクに備えておりますが、不測の事態により個人情報が漏洩した場合、当社グループに対する社会的信用の低下により、当社グループの業績は影響を受ける可能性があります。

2. 企業集団の状況

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(株式会社ベストブライダル)、子会社6社、関連会社1社により構成されており、国内及び海外における挙式・披露宴に関する企画・運営等のサービスの提供を主要事業としております。

当社グループは、新郎新婦が自分達の邸宅にお客様をお招きするような「プライベート感」「オリジナル感」を重視した挙式・披露宴を提供しております。ホテルや専門式場での挙式・披露宴と差別化する意味から、これを「ゲストハウス・ウェディング」、また婚礼施設を「ゲストハウス」と称しております。

なお、当社グループは、主要な1セグメントの売上高等が全セグメントの90%超であるため、事業の種類別セグメント情報を記載しておりません。従って、以下の記載につきましては、事業部門に関連付けて記載しております。

(1) 国内事業部門

当社グループは、首都圏及び仙台、名古屋、京都、大阪に店舗を展開しております。当社のスタッフは主にお客様に対する営業活動と店舗の運営全般に従事しております。

㈱ベストプランニングは、当社の委託を受けて主に披露宴における料理の提供を行っております。

㈱アクア・グラツィエは、婚礼貸衣装・挙式・美容サービスの提供を行っております。

㈱ライフクリエートバンクは、婚礼費用の分割払いサービスを行っております。

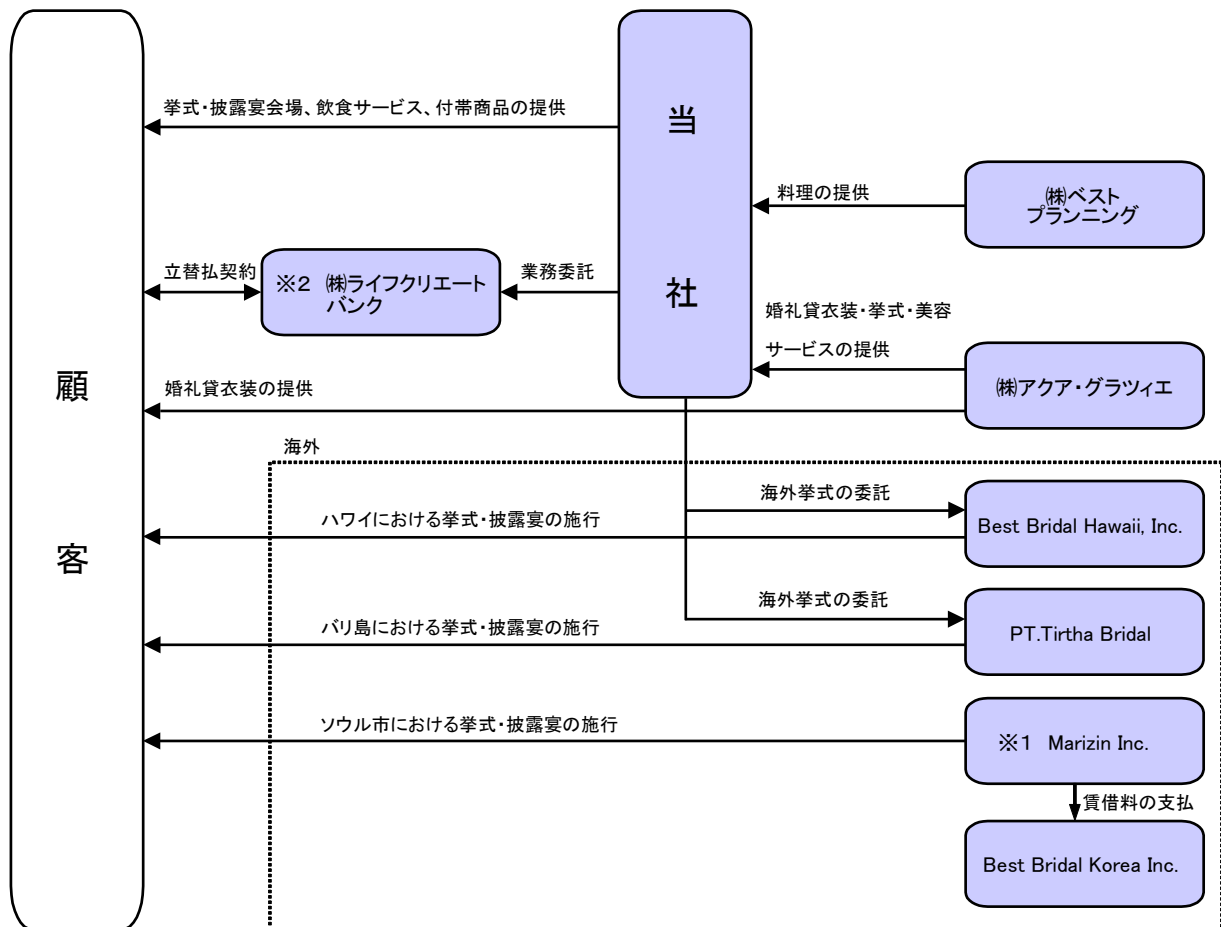
(2) 海外事業部門

当社グループは、主として日本人の方を対象に、米国・ハワイ、インドネシア・バリ島における海外挙式サービスを提供しております。当社グループは国内に販売サロンを、米国・ハワイに運営サロンを展開しております。

海外子会社Best Bridal Hawaii, Inc.及びPT. Tirtha Bridal は現地チャペルを運営し、当社が受注した海外ウェディングの施行を請け負っております。

海外子会社Best Bridal Korea Inc.は、関連会社Marizin Inc.へ婚礼施設の転貸を行っております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) 無印は連結子会社であります。

※1は関連会社で持分法適用会社であります。

※2は非連結子会社・持分法非適用会社であります。

関係会社の状況

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱ベストプランニング	東京都渋谷区	10百万円	国内事業部門	100.0	当社のウエディング等における料理の100%を委託 役員の兼任 4名
(連結子会社) Best Bridal Hawaii, Inc.	米国ハワイ州	6,011 千米ドル	海外事業部門	100.0	当社受注のハワイにおける挙式・披露宴の施行 役員の兼任 3名 資金援助あり。
(連結子会社) ㈱アクア・グラツィエ	東京都港区	13百万円	国内事業部門 海外事業部門	100.0	当社のウエディング等における婚礼貸衣装・挙式・美容サービスの委託 設備の賃貸借あり。 役員の兼任 3名
(連結子会社) Best Bridal Korea Inc.	大韓民国 ソウル市	4,050 百万ウォン	海外事業部門	100.0	役員の兼任 3名 資金援助あり。
(連結子会社) PT.Tirtha Bridal	インドネシア バリ州	45,575 百万ルピア	海外事業部門	100.0 (0.2)	当社受注のバリ島における挙式・披露宴の施行 役員の兼任 2名
(持分法適用関連会社) Marizin Inc.	大韓民国 ソウル市	908,410 千ウォン	海外事業部門	33.4	役員の兼任 1名 資金援助あり。

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業部門の名称を記載しております。
2. ㈱ベストプランニング、Best Bridal Hawaii, Inc.、㈱アクア・グラツィエ、PT.Tirtha Bridal、Best Bridal Korea Inc. は、特定子会社に該当しております。
3. ファインエクスパンド(株)は、平成20年3月6日をもって「その他の関係会社」に該当しなくなりました。
4. 合同会社YMPJを営業者とする匿名組合は、平成20年11月28日付で匿名組合契約を解約しております。
5. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、「グローバルなブライダルビジネスを通じて、人と人、心と心をつなぎながら、高い付加価値を追求し、常に創造性にあふれた企業であること」を企業理念として、常に変化し続ける顧客ニーズを的確に捉え、高品質なサービスと付加価値の高い施設の提供を行ってまいりました。今後も、ブライダルマーケットにおける新しい価値の創造を続けていくことで、グループの継続的な発展と企業価値の向上を図ってまいります。

その実現のために、当社グループは5つの基本戦略を掲げております。

【市場拡大】 首都圏・関西圏・中京圏を中心にマーケット特性に合わせた「ゲストハウス」を展開する。

【商品開発】 競争力の高いオンリーワンの商品開発を実現し、お客様にご満足いただける商品とサービスの提供を目指す。

【提案力/販売力】 お客様の多彩なニーズ＝「夢」を的確に捉え、その「実現」のための商品提案力と販売力の向上を目指す。

【利益確保】 緻密な投資計画と着実な実行力をもって、高い経営効率を実現し、利益の最大化を目指す。

【資金調達】 高い利益成長性と企業信用力の向上を背景に、直接金融・間接金融のバランスを適正に保ちながら健全な財務体質の維持と多様な資金調達を行う。

(2) 目標とする経営指標

当社は、年度ごとの経営計画に基づき、売上高及び経常利益・当期純利益の成長率を重要な指標として考えております。また、売上高営業利益率、同経常利益率、同当期純利益率等を意識した経営を行い、いずれも現在の水準からの更なる向上を図ってまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

① 商品戦略

当社は、常に時代のニーズやファッショントレンドを綿密に分析し、新郎新婦の想いを形にするゲストハウス・ウエディングを提供しております。

当社のゲストハウス・ウエディングは、新郎新婦が邸宅の主となり、パーティーの主催者として多くのゲストをお招きするという形式で式宴が構成されており、ご自身の「夢や希望」にこだわりを持つお客様に対し、社内に蓄積した経験・ノウハウと多くの協力会社による高水準のサービスとを融合させることにより、お客様の趣味や趣向を高いレベルで実現できる体制の構築を図っております。また、飲食・サービス分野におきましては、店舗ごとに専門のシェフとサービススタッフを配置し、常に質の高いサービスの提供を目指しております。

② 出店戦略

当社は、「上質」かつ「本物」の施設づくりを目指し、国内に17店舗を展開しております。当社が成長を持続するためには、綿密なマーケティング分析による施設企画、出店地選定を行った上で、効率的な出店を行っていく必要があります。今後、多くの需要が見込める首都圏・関西圏・中京圏を中心に、出店を行う計画であります。また、既存のゲストハウスにつきましても3年程度のサイクルでリニューアルを行い、常に新鮮さと高いデザイン性を維持することで、顧客獲得率の安定化を図っております。

③ 販売戦略

当社は、訪問販売等の営業方法はとっておらず、来訪客への営業スタッフによる対面販売を主な販売方法としております。

ゲストハウス、サロンへ下見・相談に来られたお客様を営業スタッフがお迎えし、パンフレット等による説明だけではなく、ゲストハウス内を納得ゆくまで見学していただきながら、ゲストハウス・ウエディングの魅力を肌で感じていただくことで、ご成約へと結び付けております。「新しいスタイルのウエディング」を提案するための営業スタッフは、それぞれの知識・経験を活かしながら、お客様からの信頼感と満足感を得ることでご成約へと繋げております。当社におきましては、各スタッフのサービス提案力向上のための教育研修制度を確立することで、今後もさらに高いレベルの人材の開発に力を入れてまいります。

当社の商品告知・広告戦略は結婚情報誌等への有料広告に大きく依存しており、同業他社との受注競争に勝つためには、より魅力ある広告制作が必須となります。当社は、ゲストハウスのデザイン、サービス内容等を最大限にアピールするため、写真を中心とした魅力的な誌面づくりに取り組んでおります。また、自社ホームページ上に各ゲストハウス及びサービス内容を紹介することによって、インターネット経由の集客活動を積極的に行っております。

一方、各ゲストハウスの成約率など販売実績動向は、週単位で管理・分析されており、顧客獲得減少の兆候がみられるゲストハウスにつきましては、国内事業部のスーパーバイザーが、支配人や現場スタッフと対策を協議し、成約率向上のための指導・提案を行っております。

また、海外挙式につきましては、集客力ならびに成約率の向上を図るために、国内における集客拠点であります海外サロン（5ヶ所）並びに販売チャンネルの強化拡充を図っております。

(4) 会社の対処すべき課題

ブライダル市場は、堅調な需要に支えられ、引き続き活性化しておりますが、顧客ニーズも多様化する傾向にあり、企業間競争は激化しております。また、わが国の人口動態を見ましても、ブライダル市場も今後は、少子化の影響を受ける可能性があります。

こうした状況の中にあって、当社はニーズの拡大しているゲストハウス・ウエディングのパイオニアとしての地位を一層堅固なものとするため、お客様のニーズに合うゲストハウスを展開していく必要があります。

また、今後の事業拡大に対応するため、優秀な人材の確保とその育成、並びに店舗戦略の多様化を図りつつ、コーポレート・ガバナンスを強化し、より健全かつ効率的な経営体制を構築してまいります。

① ゲストハウスの展開

当社は、国内に17店舗を展開しておりますが、競争力の高いゲストハウスの展開は当社事業の根幹であり、今後は、出店戦略の多様化を図りながら、より効率的な店舗展開を進めていく計画であります。

② 人材の確保と育成

当社は、顧客サービス充実のための婚礼演出力強化が同業他社との差別化に繋がるものと考え、今後も積極的に社員のモチベーションが高まる仕組みづくりに取り組むとともに、中長期的な人材育成が可能な体制を構築してまいります。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成19年12月31日)		当連結会計年度 (平成20年12月31日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び預金		7,019,474		6,272,254		
2. 売掛金		78,265		85,394		
3. たな卸資産		451,495		541,999		
4. 繰延税金資産		229,886		294,880		
5. その他		669,847		686,891		
貸倒引当金		△3,274		△10,578		
流動資産合計		8,445,694	25.3	7,870,841	24.3	
II 固定資産						
1. 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	※2	17,560,559		17,709,985		
減価償却累計額		3,779,868	13,780,690	5,151,131	12,558,854	
(2) 車両運搬具		46,398		53,641		
減価償却累計額		16,809	29,588	26,753	26,887	
(3) 土地	※2		1,060,438		4,421,415	
(4) 信託土地			3,292,782		—	
(5) 建設仮勘定			257,234		430,272	
(6) その他		1,938,642		2,160,107		
減価償却累計額		1,052,696	885,946	1,453,492	706,615	
有形固定資産合計			19,306,680	57.8	18,144,046	56.0
2. 無形固定資産			452,579	1.4	370,728	1.1
3. 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	※1		392,323		479,397	
(2) 保証金			2,215,266		2,387,034	
(3) 繰延税金資産			776,418		1,009,160	
(4) その他			1,816,291		2,155,301	
貸倒引当金			△32,893		—	
投資その他の資産合計			5,167,406	15.5	6,030,893	18.6
固定資産合計			24,926,666	74.7	24,545,667	75.7
III 繰延資産						
1. 社債発行費			13,761		11,222	
繰延資産合計			13,761	0.0	11,222	0.0
資産合計			33,386,122	100.0	32,427,732	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成19年12月31日)		当連結会計年度 (平成20年12月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金		1,462,304		1,359,961	
2. 短期借入金		4,881,379		—	
3. 一年以内返済 長期借入金	※2	2,309,564		2,350,914	
4. 一年以内償還社債		436,000		436,000	
5. 未払金		454,285		477,068	
6. 未払法人税等		1,792,856		1,720,371	
7. 前受金		1,141,477		1,244,511	
8. その他		860,164		1,192,982	
流動負債合計		13,338,031	40.0	8,781,809	27.1
II 固定負債					
1. 社債		1,702,000		1,266,000	
2. 長期借入金	※2	9,721,464		11,809,550	
3. 預り営業保証金		548,500		612,898	
4. 退職給付引当金		48,451		51,288	
5. 役員退職慰労引当金		167,500		184,200	
6. その他		266,015		231,494	
固定負債合計		12,453,931	37.3	14,155,430	43.6
負債合計		25,791,962	77.3	22,937,240	70.7
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金		472,000	1.4	472,000	1.4
2. 資本剰余金		634,720	1.9	634,720	2.0
3. 利益剰余金		6,504,735	19.5	8,631,691	26.6
株主資本合計		7,611,455	22.8	9,738,411	30.0
II 評価・換算差額等					
1. 繰延ヘッジ損益		△4,469	△0.0	△101,368	△0.3
2. 為替換算調整勘定		△12,826	△0.1	△146,550	△0.4
評価・換算差額等合計		△17,295	△0.1	△247,919	△0.7
純資産合計		7,594,160	22.7	9,490,491	29.3
負債純資産合計		33,386,122	100.0	32,427,732	100.0

(2) 連結損益計算書

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)			当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)		
		金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)		
I 売上高			28,259,353	100.0		31,073,336	100.0
II 売上原価			18,070,666	63.9		19,524,667	62.8
売上総利益			10,188,687	36.1		11,548,669	37.2
III 販売費及び一般管理費	※1		5,382,788	19.1		5,471,521	17.6
営業利益			4,805,898	17.0		6,077,148	19.6
IV 営業外収益							
1. 受取利息		38,881			47,128		
2. 協賛金収入		16,666			—		
3. 匿名組合投資利益		102,999			114,962		
4. その他		26,946	185,494	0.6	19,485	181,576	0.5
V 営業外費用							
1. 支払利息		329,594			327,816		
2. 社債発行費償却		13,872			2,539		
3. 支払手数料		—			151,833		
4. 為替差損		113,001			688,354		
5. その他		521	456,990	1.6	44,757	1,215,301	3.9
経常利益			4,534,402	16.0		5,043,423	16.2
VI 特別利益							
1. 固定資産売却益	※2	2,570	2,570	0.0	5,989	5,989	0.0
VII 特別損失							
1. 関係会社株式評価損		—			104		
2. 固定資産除却損	※3	57,455			8,603		
3. 貸倒引当金繰入額		33,916			—		
4. 事業所閉鎖費用	※4	12,458			—		
5. 賃貸借契約解約損		—			17,167		
6. 減損損失	※5	152,512			—		
7. 出店中止損	※6	—	256,342	0.9	94,688	120,563	0.3
税金等調整前当期純利益			4,280,629	15.1		4,928,849	15.9
法人税、住民税及び事業税		2,425,210			2,706,192		
法人税等調整額		△249,237	2,175,972	7.7	△230,698	2,475,493	8.0
当期純利益			2,104,657	7.4		2,453,355	7.9

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	4,563,278	5,669,998	19,008	14,720	33,729	5,703,727
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当 (千円)			△163,200	△163,200				△163,200
当期純利益 (千円)			2,104,657	2,104,657				2,104,657
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額 (純額) (千円)					△23,477	△27,547	△51,024	△51,024
連結会計年度中の変動額合計 (千円)	—	—	1,941,457	1,941,457	△23,477	△27,547	△51,024	1,890,432
平成19年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	6,504,735	7,611,455	△4,469	△12,826	△17,295	7,594,160

当連結会計年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成19年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	6,504,735	7,611,455	△4,469	△12,826	△17,295	7,594,160
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当 (千円)			△326,400	△326,400				△326,400
当期純利益 (千円)			2,453,355	2,453,355				2,453,355
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額 (純額) (千円)					△96,899	△133,724	△230,624	△230,624
連結会計年度中の変動額合計 (千円)	—	—	2,126,955	2,126,955	△96,899	△133,724	△230,624	1,896,331
平成20年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	8,631,691	9,738,411	△101,368	△146,550	△247,919	9,490,491

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

		前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		4,280,629	4,928,849
減価償却費		1,830,341	2,018,812
社債発行費償却		13,872	2,539
有形固定資産除却損		18,532	8,603
無形固定資産除却損		38,923	—
固定資産売却益		△2,570	△5,989
関係会社株式評価損		—	104
匿名組合投資利益		△102,999	△114,962
賃貸借契約解約損		—	17,167
減損損失		152,512	—
出店中止損		—	94,688
持分法による投資損益		△14,929	33,932
為替差損		—	691,640
貸倒引当金の増減額		29,630	△22,235
退職給付引当金の増加額		16,649	4,949
役員退職慰労引当金の増加額		18,000	16,700
受取利息及び受取配当金		△38,881	△47,128
支払利息		329,594	327,816
支払手数料		—	151,833
たな卸資産の増加額		△127,321	△90,944
仕入債務の増減額		358,040	△92,568
前受金の増加額		164,460	108,060
その他の負債の増加額		395,541	105,566
その他		368,757	341,530
小計		7,728,783	8,478,966
利息及び配当金の受取額		19,648	24,678
利息の支払額		△331,369	△336,934
法人税等の支払額		△2,085,272	△2,777,508
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,331,789	5,389,201

		前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の払戻による収入		—	250,475
有形固定資産の取得による支出		△8,575,802	△1,759,553
無形固定資産の取得による支出		△272,531	△13,554
関係会社株式の取得による支出		—	△40,000
貸付けによる支出		△86,778	△121,105
保証金の差入による支出		△624,107	△304,709
保証金の返還による収入		47,005	809
建設協力金の支出		△962,924	—
その他		△15,571	△67,837
投資活動によるキャッシュ・フロー		△10,490,711	△2,055,477
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額		3,925,936	△4,856,946
長期借入れによる収入		6,407,000	4,678,000
長期借入金の返済による支出		△2,374,790	△2,698,564
社債の償還による支出		△436,000	△436,000
配当金の支払額		△162,816	△325,544
財務活動によるキャッシュ・フロー		7,359,329	△3,639,055
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		325	△156,605
V 現金及び現金同等物の増減額		2,200,733	△461,937
VI 現金及び現金同等物の期首残高		4,425,250	6,625,984
VII 現金及び現金同等物の期末残高	※	6,625,984	6,164,046

継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況
該当事項はありません。

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 6社 連結子会社の名称 ㈱ベストプランニング Best Bridal Hawaii, Inc. ㈱アクア・グラツィエ Best Bridal Korea Inc. PT.Tirtha Bridal 合同会社YMPJを営業者とする匿名組合 上記の内、PT.Tirtha Bridal、合同会社YMPJを営業者とする匿名組合については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。 なお、前連結会計年度において連結子会社でありました㈱ア・リリアーレは平成19年4月1日付で㈱アクア・グラツィエと合併したため、連結の範囲から除いております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等 非連結子会社 Best Restaurants, Inc. ㈱ライフクリエートバンク なお、㈱ベストブライダルインターナショナルは、平成19年4月23日付で清算終了いたしました。</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 5社 連結子会社の名称 ㈱ベストプランニング Best Bridal Hawaii, Inc. ㈱アクア・グラツィエ Best Bridal Korea Inc. PT.Tirtha Bridal なお、前連結会計年度において連結子会社でありました合同会社YMPJを営業者とする匿名組合は平成20年11月28日付で匿名組合契約を解約したため、損益計算書のみ連結しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等 非連結子会社 ㈱ライフクリエートバンク なお、Best Restaurants, Inc. は、平成20年12月31日付で解散いたしました。</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法の適用の関連会社数 1社 会社の名称 Marizin Inc.</p>	<p>(1) 持分法の適用の関連会社数 1社 会社の名称 Marizin Inc.</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成19年 1 月 1 日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 1 月 1 日 至 平成20年12月31日)
	<p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社 Best Restaurants, Inc. ㈱ライフクリエートバンク 持分法を適用していない非連結子会社は当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>(3) 持分法の適用にあたり、発生した投資差額は発生日以降 5 年間で均等償却しております。</p>	<p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社 ㈱ライフクリエートバンク 持分法を適用していない非連結子会社は当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。 なお、Best Restaurants, Inc. は、平成20年12月31日付で解散いたしました。</p> <p>(3) 同左</p>
<p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項</p>	<p>連結子会社のうち合同会社YMPJを営業者とする匿名組合の決算日は11月30日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、12月 1 日から連結決算日12月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>また、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。</p>	<p>すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。</p>
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法） その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法 なお、匿名組合出資金については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p> <p>② デリバティブ 時価法</p> <p>③ たな卸資産 商品…個別法による原価法 貯蔵品…最終仕入原価法</p>	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券 満期保有目的の債券 同左 その他有価証券 時価のないもの 同左</p> <p>② デリバティブ 同左</p> <p>③ たな卸資産 商品…同左 原材料…最終仕入原価法 貯蔵品…同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成19年 1 月 1 日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 1 月 1 日 至 平成20年12月31日)
	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産…定率法 ただし、在外連結子会社及び平成10年4月1日以降に取得した建物（付属設備を除く）については定額法を採用しております。 なお、定期借地権契約による借地上の建物及び構築物については、耐用年数を定期借地権の残存期間、残存価額を零とした定額法によっております。</p> <p>(会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産（定期借地権契約による借地上の建物及び構築物は除く）について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ47,918千円減少しております。</p> <p>② 無形固定資産…定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>② 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。在外連結子会社の一部で発生した過去勤務債務は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p>	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産…定率法 ただし、在外連結子会社及び平成10年4月1日以降に取得した建物（付属設備を除く）については定額法を採用しております。 なお、定期借地権契約による借地上の建物及び構築物については、耐用年数を定期借地権の残存期間、残存価額を零とした定額法によっております。</p> <p>(追加情報) 法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>② 無形固定資産 同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 同左</p> <p>② 退職給付引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成19年 1 月 1 日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 1 月 1 日 至 平成20年12月31日)
	<p>③ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。</p> <p>(5) 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約、通貨オプション、通貨スワップ、金利スワップ ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金</p> <p>③ ヘッジ方針 当社の利用するデリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。</p>	<p>③ 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 同左</p> <p>(5) 重要なリース取引の処理方法 同左</p> <p>(6) 重要なヘッジ会計の方法 ① ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>③ ヘッジ方針 当社グループの利用するデリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
	(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。	同左
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

表示方法の変更

<p>前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)</p>
<p>(連結損益計算書)</p> <p>前連結会計年度まで区分掲記しておりました「業務受託料」(当連結会計年度は450千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、営業外収益の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>前連結会計年度まで区分掲記しておりました「保険解約返戻金」(当連結会計年度は11千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、営業外収益の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の負債の増加額」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため、区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれる「その他の負債の増加額」は154,712千円であります。</p>	<p>(連結損益計算書)</p> <p>前連結会計年度まで区分掲記しておりました「協賛金収入」(当連結会計年度は1,114千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、営業外収益の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>営業活動によるキャッシュ・フローの「為替差損」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため、区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「為替差損」の金額は94,497千円であります。</p> <p>投資活動によるキャッシュ・フローの「定期預金の払戻による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため、区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「定期預金の払戻による収入」の金額は30,034千円であります。</p>

注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成19年12月31日)	当連結会計年度 (平成20年12月31日)																
<p>※ 1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券 (株式)</td> <td style="text-align: right;">190,942千円</td> </tr> </table>	投資有価証券 (株式)	190,942千円	<p>※ 1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券 (株式)</td> <td style="text-align: right;">165,504千円</td> </tr> </table>	投資有価証券 (株式)	165,504千円												
投資有価証券 (株式)	190,942千円																
投資有価証券 (株式)	165,504千円																
<p>※ 2. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保に供している資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">2,864,054千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">402,402千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,266,457千円</td> </tr> </table> <p>(上記に対応する債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)</td> <td style="text-align: right;">1,028,500千円</td> </tr> </table>	建物及び構築物	2,864,054千円	土地	402,402千円	合計	3,266,457千円	長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)	1,028,500千円	<p>※ 2. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保に供している資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,792,664千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">3,792,107千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,584,772千円</td> </tr> </table> <p>(上記に対応する債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)</td> <td style="text-align: right;">4,499,000千円</td> </tr> </table>	建物及び構築物	1,792,664千円	土地	3,792,107千円	合計	5,584,772千円	長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)	4,499,000千円
建物及び構築物	2,864,054千円																
土地	402,402千円																
合計	3,266,457千円																
長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)	1,028,500千円																
建物及び構築物	1,792,664千円																
土地	3,792,107千円																
合計	5,584,772千円																
長期借入金 (一年以内返済長期借入金を含む)	4,499,000千円																
<p>3. 当社及び連結子会社であるBest Bridal Hawaii, Inc. は、当社の非連結子会社であるBest Restaurants, Inc. の不動産賃貸借契約に対し、債務保証を行っております。</p>	<p>3. _____</p>																
<p>4. _____</p>	<p>4. 当社においては、設備資金の効率的な調達を行うため取引銀行とシンジケーション方式によるコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">8,000,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,728,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,272,000千円</td> </tr> </table>	貸出コミットメントの総額	8,000,000千円	借入実行残高	3,728,000千円	差引額	4,272,000千円										
貸出コミットメントの総額	8,000,000千円																
借入実行残高	3,728,000千円																
差引額	4,272,000千円																

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)																																																										
<p>※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,200,027千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">2,738千円</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;">1,116,217千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">10,141千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">18,000千円</td></tr> <tr><td>支払地代家賃</td><td style="text-align: right;">498,885千円</td></tr> </table> <p>※2. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>車両運搬具</td><td style="text-align: right;">2,570千円</td></tr> </table> <p>※3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">16,825千円</td></tr> <tr><td>その他(器具備品)</td><td style="text-align: right;">1,706千円</td></tr> <tr><td>無形固定資産(ソフトウェア)</td><td style="text-align: right;">38,923千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">57,455千円</td></tr> </table> <p>※4. 事業所閉鎖費用の主なものは、撤去・原状回復費用であります。</p> <p>※5. 当連結会計年度において、次の資産について減損損失を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">場所</th> <th style="width: 10%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> <th style="width: 20%;">金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">米国 ハワイ州</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">婚礼 施設</td> <td style="text-align: center;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">34,223</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">有形固定資産 その他(器具備品)</td> <td style="text-align: right;">588</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">保証金</td> <td style="text-align: right;">117,700</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、主として婚礼施設ごとに資産をグルーピングしております。</p> <p>上記婚礼施設については収益性が低下した状態が続いており、当連結会計年度において事業計画の変更に伴い投資の回収が見込めないと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、減損損失の測定における回収可能価額は正味売却価額によっておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから当該資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。</p> <p>※6. _____</p>	広告宣伝費	1,200,027千円	貸倒引当金繰入額	2,738千円	給料手当	1,116,217千円	退職給付引当金繰入額	10,141千円	役員退職慰労引当金繰入額	18,000千円	支払地代家賃	498,885千円	車両運搬具	2,570千円	建物及び構築物	16,825千円	その他(器具備品)	1,706千円	無形固定資産(ソフトウェア)	38,923千円	合計	57,455千円	場所	用途	種類	金額 (千円)	米国 ハワイ州	婚礼 施設	建物及び構築物	34,223	有形固定資産 その他(器具備品)	588	保証金	117,700	<p>※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,391,113千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">6,816千円</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;">1,065,358千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">8,300千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">16,700千円</td></tr> <tr><td>支払地代家賃</td><td style="text-align: right;">453,237千円</td></tr> </table> <p>※2. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>車両運搬具</td><td style="text-align: right;">1,240千円</td></tr> <tr><td>その他(器具備品)</td><td style="text-align: right;">4,748千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">5,989千円</td></tr> </table> <p>※3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">7,845千円</td></tr> <tr><td>その他(器具備品)</td><td style="text-align: right;">757千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">8,603千円</td></tr> </table> <p>※4. _____</p> <p>※5. _____</p> <p>※6. 出店中止損の主なものは、設計業務委託料であります。</p>	広告宣伝費	1,391,113千円	貸倒引当金繰入額	6,816千円	給料手当	1,065,358千円	退職給付引当金繰入額	8,300千円	役員退職慰労引当金繰入額	16,700千円	支払地代家賃	453,237千円	車両運搬具	1,240千円	その他(器具備品)	4,748千円	合計	5,989千円	建物及び構築物	7,845千円	その他(器具備品)	757千円	合計	8,603千円
広告宣伝費	1,200,027千円																																																										
貸倒引当金繰入額	2,738千円																																																										
給料手当	1,116,217千円																																																										
退職給付引当金繰入額	10,141千円																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	18,000千円																																																										
支払地代家賃	498,885千円																																																										
車両運搬具	2,570千円																																																										
建物及び構築物	16,825千円																																																										
その他(器具備品)	1,706千円																																																										
無形固定資産(ソフトウェア)	38,923千円																																																										
合計	57,455千円																																																										
場所	用途	種類	金額 (千円)																																																								
米国 ハワイ州	婚礼 施設	建物及び構築物	34,223																																																								
		有形固定資産 その他(器具備品)	588																																																								
		保証金	117,700																																																								
広告宣伝費	1,391,113千円																																																										
貸倒引当金繰入額	6,816千円																																																										
給料手当	1,065,358千円																																																										
退職給付引当金繰入額	8,300千円																																																										
役員退職慰労引当金繰入額	16,700千円																																																										
支払地代家賃	453,237千円																																																										
車両運搬具	1,240千円																																																										
その他(器具備品)	4,748千円																																																										
合計	5,989千円																																																										
建物及び構築物	7,845千円																																																										
その他(器具備品)	757千円																																																										
合計	8,603千円																																																										

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	40,800	40,800	—	81,600
合計	40,800	40,800	—	81,600
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

(注) 普通株式の発行済株式数の増加40,800株は、株式分割によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年3月29日 定時株主総会	普通株式	81,600	2,000	平成18年12月31日	平成19年3月30日
平成19年8月13日 取締役会	普通株式	81,600	1,000	平成19年6月30日	平成19年9月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年3月28日 定時株主総会	普通株式	163,200	利益剰余金	2,000	平成19年12月31日	平成20年3月31日

当連結会計年度（自平成20年1月1日 至平成20年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	81,600	—	—	81,600
合計	81,600	—	—	81,600
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成20年3月28日 定時株主総会	普通株式	163,200	2,000	平成19年12月31日	平成20年3月31日
平成20年8月15日 取締役会	普通株式	163,200	2,000	平成20年6月30日	平成20年9月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成21年3月27日 定時株主総会	普通株式	244,800	利益剰余金	3,000	平成20年12月31日	平成21年3月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成19年12月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在)
現金及び預金 7,019,474千円	現金及び預金 6,272,254千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △393,490千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △108,207千円
現金及び現金同等物 6,625,984千円	現金及び現金同等物 6,164,046千円

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)				当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)			
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引				1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引			
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
建物及び構築物	1,744,835	208,421	1,536,413	建物及び構築物	2,804,835	299,693	2,505,141
有形固定資産 その他 (器具備品)	1,380,646	645,714	734,931	有形固定資産 その他 (器具備品)	1,134,635	686,541	448,094
車両運搬具	14,812	6,354	8,457	車両運搬具	7,552	2,265	5,286
合計	3,140,293	860,491	2,279,802	合計	3,947,023	988,500	2,958,522
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年内 314,072千円				1年内 294,314千円			
1年超 2,037,407千円				1年超 2,828,193千円			
合計 2,351,480千円				合計 3,122,508千円			
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額				(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額			
支払リース料 365,327千円				支払リース料 384,942千円			
減価償却費相当額 304,094千円				減価償却費相当額 306,275千円			
支払利息相当額 73,192千円				支払利息相当額 66,721千円			
(4) 減価償却費相当額の算定方法				(4) 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				同左			
(5) 利息相当額の算定方法				(5) 利息相当額の算定方法			
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。				同左			
2. オペレーティング・リース取引				2. オペレーティング・リース取引			
未経過リース料				未経過リース料			
1年内 1,077,052千円				1年内 1,130,137千円			
1年超 8,417,503千円				1年超 7,666,845千円			
合計 9,494,555千円				合計 8,796,983千円			

(有価証券関係)

時価評価されていない主な有価証券の内容

	前連結会計年度 (平成19年12月31日)	当連結会計年度 (平成20年12月31日)
	連結貸借対照表計上額 (千円)	連結貸借対照表計上額 (千円)
その他有価証券		
匿名組合出資金	201,381	313,892

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

<p>前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)</p>
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、通貨関連では為替予約、通貨オプション、通貨スワップ取引、金利関連では金利スワップ取引であります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、通貨関連では外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で、また、金利関連では借入金利の変動リスクを回避する目的、借入金調達コストの軽減の目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約、通貨オプション、通貨スワップ、金利スワップ ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金 ヘッジ方針 当社の利用するデリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 為替予約、通貨オプション、通貨スワップ取引は為替変動によるリスクを、金利スワップ取引は市場金利の変動によるリスクを有しております。 なお、契約先は信用度の高い銀行を選択しており、信用リスクはないものと判断しております。</p>	<p>(1) 取引の内容 同左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、通貨関連では外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で、また、金利関連では借入金利の変動リスクを回避する目的、借入金調達コストの軽減の目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約、通貨オプション、通貨スワップ、金利スワップ ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金 ヘッジ方針 当社グループの利用するデリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 同左</p>

前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
<p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引についての基本方針は、管理部長が決定し、取引の実行および管理は管理部長の承認のもとに管理部財務担当が行っております。</p> <p>(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	<p>(5) 取引に係るリスク管理体制 同左</p> <p>(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 同左</p>

2. 取引の時価等に関する事項

通貨関連

区分	種類	前連結会計年度 (平成19年12月31日)				当連結会計年度 (平成20年12月31日)			
		契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以 外の取引	通貨スワップ取引 受取米ドル・ 支払円	2,403,700	—	△121	△121	—	—	—	—
	通貨オプション取引 売建 プット 米ドル	11,002	—	—	—	19,043	—	△3,124	△3,124
	買建 コール 米ドル	11,002	—	997	997	19,043	—	—	—
	合計	—	—	876	876	—	—	△3,124	△3,124

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 通貨スワップ取引はクーポンスワップ取引であり、契約額等は想定元本を開示しております。当該想定元本についてはその支払いは行われず、クーポン部分について、約定による金銭の相互支払を行うものであります。
3. 通貨オプション取引は、売建、買建オプション料を相殺するゼロコストオプション取引であり、オプション料は発生していません。
4. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

(退職給付関係)

前連結会計年度 (平成19年12月31日)	当連結会計年度 (平成20年12月31日)																		
<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社及び連結子会社であるPT.Tirtha Bridalは、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。</p>	<p>1. 採用している退職給付制度の概要 当社及び連結子会社であるPT.Tirtha Bridalは、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。</p>																		
<p>2. 退職給付債務及びその内訳</p> <table> <tr> <td>① 退職給付債務</td> <td>△52,195千円</td> </tr> <tr> <td>② 未認識数理計算上の差異</td> <td>1,724千円</td> </tr> <tr> <td>③ 未認識過去勤務債務</td> <td>2,019千円</td> </tr> <tr> <td>④ 退職給付引当金 (①+②+③)</td> <td>△48,451千円</td> </tr> </table> <p>(注) 当社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	① 退職給付債務	△52,195千円	② 未認識数理計算上の差異	1,724千円	③ 未認識過去勤務債務	2,019千円	④ 退職給付引当金 (①+②+③)	△48,451千円	<p>2. 退職給付債務及びその内訳</p> <table> <tr> <td>① 退職給付債務</td> <td>△53,089千円</td> </tr> <tr> <td>② 未認識数理計算上の差異</td> <td>848千円</td> </tr> <tr> <td>③ 未認識過去勤務債務</td> <td>952千円</td> </tr> <tr> <td>④ 退職給付引当金 (①+②+③)</td> <td>△51,288千円</td> </tr> </table> <p>(注) 当社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	① 退職給付債務	△53,089千円	② 未認識数理計算上の差異	848千円	③ 未認識過去勤務債務	952千円	④ 退職給付引当金 (①+②+③)	△51,288千円		
① 退職給付債務	△52,195千円																		
② 未認識数理計算上の差異	1,724千円																		
③ 未認識過去勤務債務	2,019千円																		
④ 退職給付引当金 (①+②+③)	△48,451千円																		
① 退職給付債務	△53,089千円																		
② 未認識数理計算上の差異	848千円																		
③ 未認識過去勤務債務	952千円																		
④ 退職給付引当金 (①+②+③)	△51,288千円																		
<p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table> <tr> <td>① 勤務費用</td> <td>17,662千円</td> </tr> <tr> <td>② 利息費用</td> <td>1,575千円</td> </tr> <tr> <td>③ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>1,442千円</td> </tr> <tr> <td>④ 退職給付費用 (合計)</td> <td>20,680千円</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している当社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。</p>	① 勤務費用	17,662千円	② 利息費用	1,575千円	③ 過去勤務債務の費用処理額	1,442千円	④ 退職給付費用 (合計)	20,680千円	<p>3. 退職給付費用に関する事項</p> <table> <tr> <td>① 勤務費用</td> <td>13,214千円</td> </tr> <tr> <td>② 利息費用</td> <td>822千円</td> </tr> <tr> <td>③ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>2,896千円</td> </tr> <tr> <td>④ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td>557千円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 退職給付費用 (合計)</td> <td>17,490千円</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している当社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。</p>	① 勤務費用	13,214千円	② 利息費用	822千円	③ 数理計算上の差異の費用処理額	2,896千円	④ 過去勤務債務の費用処理額	557千円	⑤ 退職給付費用 (合計)	17,490千円
① 勤務費用	17,662千円																		
② 利息費用	1,575千円																		
③ 過去勤務債務の費用処理額	1,442千円																		
④ 退職給付費用 (合計)	20,680千円																		
① 勤務費用	13,214千円																		
② 利息費用	822千円																		
③ 数理計算上の差異の費用処理額	2,896千円																		
④ 過去勤務債務の費用処理額	557千円																		
⑤ 退職給付費用 (合計)	17,490千円																		
<p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>(1) 当社は、自己都合期末要支給額をもって退職給付債務としております。</p> <p>(2) 連結子会社であるPT.Tirtha Bridalは、退職給付債務等の計算の基礎に関する事項は、以下のとおりであります。</p> <p>① 退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準</p> <p>② 割引率 (%) 10.5</p> <p>③ 過去勤務債務の額の処理年数 (年) 7～9 発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。</p> <p>④ 数理計算上の差異の処理年数 (年) 7～9 各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p>	<p>4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>(1) 当社は、自己都合期末要支給額をもって退職給付債務としております。</p> <p>(2) 連結子会社であるPT.Tirtha Bridalは、退職給付債務等の計算の基礎に関する事項は、以下のとおりであります。</p> <p>① 退職給付見込額の期間配分方法 期間定額基準</p> <p>② 割引率 (%) 12</p> <p>③ 過去勤務債務の額の処理年数 (年) 7～9 発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。</p> <p>④ 数理計算上の差異の処理年数 (年) 7～9 各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p>																		

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成19年12月31日)	当連結会計年度 (平成20年12月31日)
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>繰延税金資産 (流動)</p> <p>未払事業税 124,437</p> <p>未払賞与 34,981</p> <p>未払事業所税 10,669</p> <p>前受営業負担金 40,294</p> <p>寄附金 23,060</p> <p>繰越欠損金 13,281</p> <p>その他 10,321</p> <hr/> <p>繰延税金資産 小計 257,046</p> <p>評価性引当額 △23,060</p> <hr/> <p>繰延税金資産 合計 233,986</p> <p>繰延税金負債 (流動)</p> <p>繰延ヘッジ利益 3,440</p> <p>その他 659</p> <hr/> <p>繰延税金負債 合計 4,100</p> <hr/> <p>繰延税金資産 (流動) の純額 229,886</p> <p>繰延税金資産 (固定)</p> <p>有形固定資産 631,810</p> <p>役員退職慰労引当金 68,172</p> <p>退職給付引当金 19,005</p> <p>前受営業負担金 103,799</p> <p>減損損失 61,005</p> <p>貸倒引当金繰入額 18,294</p> <p>その他 69,599</p> <hr/> <p>繰延税金資産 小計 971,686</p> <p>評価性引当額 △194,167</p> <hr/> <p>繰延税金資産 合計 777,519</p> <p>繰延税金負債 (固定)</p> <p>その他 1,101</p> <hr/> <p>繰延税金資産 (固定) の純額 776,418</p>	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>繰延税金資産 (流動)</p> <p>未払事業税 123,440</p> <p>未払賞与 37,384</p> <p>未払事業所税 12,392</p> <p>前受営業負担金 47,832</p> <p>出店中止損 38,538</p> <p>繰延ヘッジ損失 24,084</p> <p>その他 19,887</p> <hr/> <p>繰延税金資産 小計 303,560</p> <p>評価性引当額 △8,311</p> <hr/> <p>繰延税金資産 合計 295,249</p> <p>繰延税金負債 (流動)</p> <p>その他 368</p> <hr/> <p>繰延税金負債 合計 368</p> <hr/> <p>繰延税金資産 (流動) の純額 294,880</p> <p>繰延税金資産 (固定)</p> <p>有形固定資産 879,206</p> <p>役員退職慰労引当金 74,969</p> <p>為替差損 145,273</p> <p>前受営業負担金 88,720</p> <p>繰越欠損金 50,611</p> <p>その他 130,192</p> <hr/> <p>繰延税金資産 小計 1,368,973</p> <p>評価性引当額 △358,151</p> <hr/> <p>繰延税金資産 合計 1,010,821</p> <p>繰延税金負債との相殺 △1,660</p> <hr/> <p>繰延税金資産 (固定) の純額 1,009,160</p> <p>繰延税金負債 (固定)</p> <p>その他 3,013</p> <hr/> <p>繰延税金負債 合計 3,013</p> <hr/> <p>繰延税金資産との相殺 △1,660</p> <hr/> <p>繰延税金負債 (固定) の純額 1,352</p>
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <p>法定実効税率 40.7</p> <p>(調整)</p> <p>同族会社の留保金課税 4.5</p> <p>交際費等永久に損金に算入されない項目 0.3</p> <p>住民税均等割等 0.7</p> <p>評価性引当額の増加 3.8</p> <p>その他 0.8</p> <hr/> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 50.8</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <p>法定実効税率 40.7</p> <p>(調整)</p> <p>同族会社の留保金課税 3.6</p> <p>受取配当金等永久に益金に算入されない項目 △0.4</p> <p>住民税均等割等 0.4</p> <p>評価性引当額の増加 3.0</p> <p>その他 2.9</p> <hr/> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 50.2</p>

(セグメント情報)

a. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度（自平成19年1月1日 至平成19年12月31日）及び当連結会計年度（自平成20年1月1日 至平成20年12月31日）

当社グループは、婚礼に関連した総合的なサービスの提供を主たる事業としており、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める当該事業の割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

b. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度（自平成19年1月1日 至平成19年12月31日）及び当連結会計年度（自平成20年1月1日 至平成20年12月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメント売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

前連結会計年度（自平成19年1月1日 至平成19年12月31日）

	ハワイ	その他の地域	計
I 海外売上高（千円）	3,303,648	491,800	3,795,448
II 連結売上高（千円）	—	—	28,259,353
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	11.7	1.7	13.4

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

(1) ハワイ …………… 米国ハワイ州

(2) その他の地域 …… インドネシア・バリ島、韓国

3. 海外売上高は本邦で受注した本邦以外での売上高及び在外連結子会社の売上高であります。

当連結会計年度（自平成20年1月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満になったため、海外売上高の記載を省略しております。

(関連当事者との取引)

前連結会計年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)

親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権の被所有割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社	ファインエクspand(有)	東京都港区	3,000	不動産の賃貸、有価証券の保有・運用	27.6	兼任1名	建物の賃借	賃借料の支払	27,903	前払費用	—
										長期前払費用	—
								保証金の返還	14,142	保証金	—
								建設協力金の返還		21,200	建設協力金

- (注) 1. 当社専務取締役塚田啓子及びその近親者が100%出資する会社であり、「役員及び個人主要株主等」に該当する会社であります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針
建物の賃借については、近隣の賃借料に基づき他の賃借者と同様の条件で、賃借料金を決定しております。建設協力金については、当社の要望に基づく改装工事代金であり、10年間で賃借料と相殺されます。
3. 「賃借料の支払」の金額は消費税等が含まれておりません。
4. ファインエクspand(有)との賃貸借契約は平成19年12月27日で解消しており、それに伴い建設協力金残額及び保証金は、全額返還されております。

当連結会計年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)									
1株当たり純資産額	93,065円69銭	1株当たり純資産額	116,305円05銭								
1株当たり当期純利益金額	25,792円37銭	1株当たり当期純利益金額	30,065円64銭								
<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p> <p>提出会社は、平成19年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。</p> <p>なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の前連結会計年度における1株当たり情報については、以下のとおりとなります。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">前連結会計年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1株当たり純資産額</td> <td>69,898円63銭</td> </tr> <tr> <td>1株当たり当期純利益金額</td> <td>21,717円95銭</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		前連結会計年度		1株当たり純資産額	69,898円63銭	1株当たり当期純利益金額	21,717円95銭	<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>		<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>	
前連結会計年度											
1株当たり純資産額	69,898円63銭										
1株当たり当期純利益金額	21,717円95銭										
<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>											

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
当期純利益 (千円)	2,104,657	2,453,355
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	2,104,657	2,453,355
期中平均株式数 (株)	81,600	81,600

5. 個別財務諸表

(1) 貸借対照表

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び預金		5,256,705		4,271,369		
2. 売掛金		54,289		60,928		
3. 商品		83,415		82,764		
4. 原材料		—		20,737		
5. 貯蔵品		186,044		284,706		
6. 前渡金		203,697		115,365		
7. 前払費用		208,741		251,036		
8. 立替金		7,089		50,491		
9. 未収入金		208,993		202,198		
10. 繰延税金資産		190,017		263,890		
11. その他	※2	277,272		309,989		
貸倒引当金		△3,190		△9,854		
流動資産合計		6,673,075	20.4	5,903,622	18.8	
II 固定資産						
1. 有形固定資産						
(1) 建物	※1	14,446,822		14,807,792		
減価償却累計額		3,114,989	11,331,833	4,312,868	10,494,924	
(2) 構築物		1,763,514		1,829,278		
減価償却累計額		480,053	1,283,460	623,684	1,205,593	
(3) 車両運搬具		28,697		38,972		
減価償却累計額		10,828	17,869	20,327	18,644	
(4) 器具備品		1,226,153		1,348,127		
減価償却累計額		592,466	633,687	804,037	544,089	
(5) 土地	※1		968,962		4,358,667	
(6) 建設仮勘定			76,535		430,272	
有形固定資産合計			14,312,349		17,052,192	54.4

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
2. 無形固定資産					
(1) 商標権		74		47	
(2) ソフトウェア		65,282		214,679	
(3) ソフトウェア仮勘定		178,544		17,183	
(4) 電話加入権		447		447	
(5) 水道施設利用権		4,600		4,198	
無形固定資産合計		248,949	0.8	236,557	0.8
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券		201,381		313,892	
(2) 関係会社株式		1,484,403		1,509,524	
(3) その他の関係会社有 価証券		3,554,814		—	
(4) 出資金		20		20	
(5) 関係会社長期貸付金		1,874,925		1,348,620	
(6) 長期前払費用		166,706		221,935	
(7) 保証金		1,825,912		2,121,817	
(8) 建設協力金		1,405,173		1,279,175	
(9) 会員権		27,280		27,280	
(10) 繰延税金資産		792,882		1,280,931	
(11) その他		62,219		64,563	
投資その他の資産合計		11,395,719	34.9	8,167,760	26.0
固定資産合計		25,957,018	79.5	25,456,509	81.2
Ⅲ 繰延資産					
1. 社債発行費		13,761		11,222	
繰延資産合計		13,761	0.1	11,222	0.0
資産合計		32,643,855	100.0	31,371,355	100.0

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金	※2	1,504,462		1,283,116	
2. 短期借入金		4,881,379		—	
3. 一年以内返済長期借入金	※1	2,309,564		2,350,914	
4. 一年以内償還社債		436,000		436,000	
5. 未払金		417,669		449,381	
6. 未払費用		287,454		290,908	
7. 未払法人税等		1,598,484		1,454,160	
8. 未払消費税等		169,714		275,479	
9. 前受金		1,105,616		1,227,601	
10. 預り金		31,468		36,317	
11. その他		106,346		260,835	
流動負債合計		12,848,160	39.4	8,064,715	25.7
II 固定負債					
1. 社債		1,702,000		1,266,000	
2. 長期借入金	※1	9,721,464		11,809,550	
3. 預り営業保証金		548,500		612,898	
4. 退職給付引当金		41,774		46,653	
5. 役員退職慰労引当金		167,500		184,200	
6. その他		266,015		230,141	
固定負債合計		12,447,254	38.1	14,149,443	45.1
負債合計		25,295,415	77.5	22,214,158	70.8

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金			472,000	1.5	472,000	1.5
2. 資本剰余金						
(1) 資本準備金		634,720			634,720	
資本剰余金合計			634,720	1.9	634,720	2.0
3. 利益剰余金						
(1) 利益準備金		8,000			8,000	
(2) その他利益剰余金						
別途積立金		15,000			15,000	
繰越利益剰余金		6,223,189			8,110,057	
利益剰余金合計			6,246,189	19.1	8,133,057	26.0
株主資本合計			7,352,909	22.5	9,239,777	29.5
II 評価・換算差額等						
1. 繰延ヘッジ損益			△4,469	△0.0	△82,580	△0.3
評価・換算差額等合計			△4,469	△0.0	△82,580	△0.3
純資産合計			7,348,440	22.5	9,157,196	29.2
負債純資産合計			32,643,855	100.0	31,371,355	100.0

(2) 損益計算書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)			
		金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)		
I 売上高			27,478,841	100.0	30,319,021	100.0	
II 売上原価	※1		19,666,582	71.6	21,317,932	70.3	
売上総利益			7,812,259	28.4	9,001,088	29.7	
III 販売費及び一般管理費							
1. 広告宣伝費		1,167,273			1,383,500		
2. 貸倒引当金繰入額		2,854			6,831		
3. 役員報酬		125,040			126,120		
4. 給料手当		413,001			397,478		
5. 賞与		68,027			67,870		
6. 法定福利費		60,656			70,592		
7. 退職給付引当金繰入額		7,140			6,539		
8. 役員退職慰労引当金繰入額		18,000			16,700		
9. 旅費交通費		109,456			94,007		
10. 租税公課		276,713			266,636		
11. 消耗品費		126,674			130,508		
12. 支払手数料		198,894			211,380		
13. 支払地代家賃		273,155			262,101		
14. 減価償却費		74,853			95,139		
15. その他		686,824	3,608,568	13.1	692,015	3,827,422	12.6
営業利益			4,203,690	15.3	5,173,665	17.1	
IV 営業外収益							
1. 受取利息	※1	93,004			98,411		
2. 有価証券利息		344			1,128		
3. 受取配当金	※1	—			80,000		
4. 関係会社業務受託料		16,950			16,200		
5. 協賛金収入		16,666			—		
6. 匿名組合投資利益	※1	57,813			79,303		
7. 雑収入		11,007	195,787	0.7	18,691	293,735	0.9

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)	
		金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)
V 営業外費用					
1. 支払利息		283,530		299,170	
2. 社債利息		33,729		28,646	
3. 社債発行費償却		13,872		2,539	
4. 支払手数料		—		151,833	
5. 為替差損		2,045		170,630	
6. 雑損失		478	333,657	10,855	663,675
経常利益			4,065,820		4,803,726
VI 特別利益					
1. 固定資産売却益	※2	2,570	2,570	—	—
VII 特別損失					
1. 関係会社株式評価損		—		700,102	
2. 固定資産除却損	※3	56,014		7,845	
3. 事業所閉鎖費用	※4	12,458		—	
4. 出店中止損	※5	—	68,472	94,688	802,636
税引前当期純利益			3,999,918		4,001,089
法人税、住民税及び事業税		2,146,532		2,296,132	
法人税等調整額		△314,561	1,831,970	△508,311	1,787,821
当期純利益			2,167,947		2,213,268

売上原価明細書

区分	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
1. 外注費	13,987,145	71.1	14,847,348	69.6
2. 労務費	1,274,723	6.5	1,621,781	7.6
3. 経費	4,342,575	22.1	4,789,393	22.5
4. 商品原価				
(1) 期首商品たな卸高	83,855		83,415	
(2) 商品仕入高	61,698		58,756	
(3) 期末商品たな卸高	83,415	62,137	82,764	59,408
売上原価合計		19,666,582		21,317,932

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)

	株主資本							株主資本合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	利益剰余金		利益剰余金合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		利益準備金	その他利益剰余金			
						別途積立金			繰越利益剰余金
平成18年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	634,720	8,000	15,000	4,218,441	4,241,441	5,348,161	
事業年度中の変動額									
剰余金の配当 (千円)						△163,200	△163,200	△163,200	
当期純利益 (千円)						2,167,947	2,167,947	2,167,947	
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額) (千円)									
事業年度中の変動額合計 (千円)	-	-	-	-	-	2,004,747	2,004,747	2,004,747	
平成19年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	634,720	8,000	15,000	6,223,189	6,246,189	7,352,909	

	評価・換算差額等		純資産合計
	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
平成18年12月31日 残高 (千円)	19,008	19,008	5,367,170
事業年度中の変動額			
剰余金の配当 (千円)			△163,200
当期純利益 (千円)			2,167,947
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額) (千円)	△23,477	△23,477	△23,477
事業年度中の変動額合計 (千円)	△23,477	△23,477	1,981,269
平成19年12月31日 残高 (千円)	△4,469	△4,469	7,348,440

当事業年度（自平成20年1月1日 至平成20年12月31日）

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
				別途積立金	繰越利益剰余金			
平成19年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	634,720	8,000	15,000	6,223,189	6,246,189	7,352,909
事業年度中の変動額								
剰余金の配当 (千円)						△326,400	△326,400	△326,400
当期純利益 (千円)						2,213,268	2,213,268	2,213,268
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額) (千円)								
事業年度中の変動額合計 (千円)	—	—	—	—	—	1,886,868	1,886,868	1,886,868
平成20年12月31日 残高 (千円)	472,000	634,720	634,720	8,000	15,000	8,110,057	8,133,057	9,239,777

	評価・換算差額等		純資産合計
	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
平成19年12月31日 残高 (千円)	△4,469	△4,469	7,348,440
事業年度中の変動額			
剰余金の配当 (千円)			△326,400
当期純利益 (千円)			2,213,268
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額) (千円)	△78,111	△78,111	△78,111
事業年度中の変動額合計 (千円)	△78,111	△78,111	1,808,756
平成20年12月31日 残高 (千円)	△82,580	△82,580	9,157,196

継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況
該当事項はありません。

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成19年 1 月 1 日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年 1 月 1 日 至 平成20年12月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 満期保有目的の債券 償却原価法 (定額法)</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(3) その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>なお、匿名組合出資金については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p> <p>ただし、匿名組合出資金のうち、関係会社に該当するものについては、「その他の関係会社有価証券」に計上しております。</p>	<p>(1) 満期保有目的の債券 同左</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(3) その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>なお、匿名組合出資金については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法	同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	商品…個別法による原価法 貯蔵品…最終仕入原価法	商品…同左 原材料…最終仕入原価法 貯蔵品…同左
4. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産…定率法 ただし、平成10年 4 月 1 日以降に取得した建物 (付属設備を除く) については定額法を採用しております。</p> <p>なお、定期借地権契約による借地上の建物及び構築物については、耐用年数を定期借地権の残存期間、残存価額を零とした定額法によっております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年 4 月 1 日以降に取得した有形固定資産 (定期借地権契約による借地上の建物及び構築物は除く) について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ18,599千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産…定額法 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5 年) に基づいております。</p> <p>(3) 長期前払費用…定額法</p>	<p>(1) 有形固定資産…定率法 ただし、平成10年 4 月 1 日以降に取得した建物 (付属設備を除く) については定額法を採用しております。</p> <p>なお、定期借地権契約による借地上の建物及び構築物については、耐用年数を定期借地権の残存期間、残存価額を零とした定額法によっております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>法人税法の改正に伴い、平成19年 3 月 31 日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の 5 % に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の 5 % 相当額と備忘価額との差額を 5 年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>これによる損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) 長期前払費用 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
5. 繰延資産の処理方法	<p>社債発行費</p> <p>旧商法の規定に基づき3年以内に均等額以上を償却する方法を採用しております。</p> <p>ただし平成18年度以降発生分につきましては、償還期間にわたり月割計算をしております。</p>	<p>社債発行費</p> <p>償還期間にわたり月割計算をしております。</p>
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金</p> <p>債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 退職給付引当金 同左</p> <p>(3) 役員退職慰労引当金 同左</p>
7. リース取引の処理方法	<p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>同左</p>
8. ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについて特例処理の条件を満たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 為替予約、通貨オプション、通貨スワップ、金利スワップ</p> <p>ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針</p> <p>当社の利用するデリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジするために実需に基づき行うこととしており、投機を目的とした取引は行わないこととしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の間に高い相関関係があることを確認し、有効性の評価方法としております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

表示方法の変更

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
<p>(損益計算書)</p> <p>前事業年度まで区分掲記しておりました「保険解約返戻金」(当事業年度は11千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、営業外収益の「雑収入」に含めて表示することとしました。</p>	<p>(損益計算書)</p> <p>前事業年度まで区分掲記しておりました「協賛金収入」(当事業年度は1,114千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、営業外収益の「雑収入」に含めて表示することとしました。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成19年12月31日)	当事業年度 (平成20年12月31日)																														
<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。 (担保に供している資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">2,864,054千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">402,402千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,266,457千円</td> </tr> </table> <p>(上記に対応する債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,028,500千円</td> </tr> </table> <p>(一年以内返済長期借入金を含む)</p> <p>※2. 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほかに次のものがあります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)</td> <td style="text-align: right;">276,280千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">流動負債 買掛金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">789,707千円</td> </tr> </table> <p>3. 偶発債務 債務保証 当社は、関係会社であるBest Restaurants, Inc.の不動産賃貸借契約に対し、債務保証を行っております。</p> <p>4. _____</p>	建物	2,864,054千円	土地	402,402千円	合計	3,266,457千円	長期借入金	1,028,500千円	流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)	276,280千円	流動負債 買掛金	789,707千円	<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。 (担保に供している資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,792,664千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">3,792,107千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,584,772千円</td> </tr> </table> <p>(上記に対応する債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">4,499,000千円</td> </tr> </table> <p>(一年以内返済長期借入金を含む)</p> <p>※2. 関係会社項目 関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほかに次のものがあります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)</td> <td style="text-align: right;">308,138千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">流動負債 買掛金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">515,936千円</td> </tr> </table> <p>3. _____</p> <p>4. 当社においては、設備資金の効率的な調達を行うため取引銀行とシンジケーション方式によるコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">8,000,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,728,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,272,000千円</td> </tr> </table>	建物	1,792,664千円	土地	3,792,107千円	合計	5,584,772千円	長期借入金	4,499,000千円	流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)	308,138千円	流動負債 買掛金	515,936千円	貸出コミットメントの総額	8,000,000千円	借入実行残高	3,728,000千円	差引額	4,272,000千円
建物	2,864,054千円																														
土地	402,402千円																														
合計	3,266,457千円																														
長期借入金	1,028,500千円																														
流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)	276,280千円																														
流動負債 買掛金	789,707千円																														
建物	1,792,664千円																														
土地	3,792,107千円																														
合計	5,584,772千円																														
長期借入金	4,499,000千円																														
流動資産 その他(一年以内回収関係会社 長期貸付金)	308,138千円																														
流動負債 買掛金	515,936千円																														
貸出コミットメントの総額	8,000,000千円																														
借入実行残高	3,728,000千円																														
差引額	4,272,000千円																														

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)																										
<p>※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">外注費</td> <td style="text-align: right;">7,895,724千円</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">60,681千円</td> </tr> <tr> <td>匿名組合投資利益 (△損失)</td> <td style="text-align: right;">△45,185千円</td> </tr> </table> <p>※2. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">車両運搬具</td> <td style="text-align: right;">2,570千円</td> </tr> </table> <p>※3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">16,825千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td style="text-align: right;">265千円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">38,923千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">56,014千円</td> </tr> </table> <p>※4. 事業所閉鎖費用の主なものは、撤去・原状回復費用であります。</p> <p>※5. _____</p>	外注費	7,895,724千円	受取利息	60,681千円	匿名組合投資利益 (△損失)	△45,185千円	車両運搬具	2,570千円	建物	16,825千円	器具備品	265千円	ソフトウェア	38,923千円	合計	56,014千円	<p>※1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">外注費</td> <td style="text-align: right;">7,650,114千円</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">62,693千円</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">80,000千円</td> </tr> <tr> <td>匿名組合投資利益 (△損失)</td> <td style="text-align: right;">△35,659千円</td> </tr> </table> <p>※2. _____</p> <p>※3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">7,845千円</td> </tr> </table> <p>※4. _____</p> <p>※5. 出店中止損の主なものは、設計業務委託料であります。</p>	外注費	7,650,114千円	受取利息	62,693千円	受取配当金	80,000千円	匿名組合投資利益 (△損失)	△35,659千円	建物	7,845千円
外注費	7,895,724千円																										
受取利息	60,681千円																										
匿名組合投資利益 (△損失)	△45,185千円																										
車両運搬具	2,570千円																										
建物	16,825千円																										
器具備品	265千円																										
ソフトウェア	38,923千円																										
合計	56,014千円																										
外注費	7,650,114千円																										
受取利息	62,693千円																										
受取配当金	80,000千円																										
匿名組合投資利益 (△損失)	△35,659千円																										
建物	7,845千円																										

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)
該当事項はありません。

当事業年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)
該当事項はありません。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)				当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)			
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引				1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引			
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
建物	1,744,835	208,421	1,536,413	建物	2,804,835	299,693	2,505,141
器具備品	1,380,646	645,714	734,931	器具備品	1,134,635	686,541	448,094
車両運搬具	14,812	6,354	8,457	車両運搬具	7,552	2,265	5,286
合計	3,140,293	860,491	2,279,802	合計	3,947,023	988,500	2,958,522
(2) 未経過リース料期末残高相当額				(2) 未経過リース料期末残高相当額			
1年内 314,072千円				1年内 294,314千円			
1年超 2,037,407千円				1年超 2,828,193千円			
合計 2,351,480千円				合計 3,122,508千円			
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額				(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額			
支払リース料 365,327千円				支払リース料 384,942千円			
減価償却費相当額 304,094千円				減価償却費相当額 306,275千円			
支払利息相当額 73,192千円				支払利息相当額 66,721千円			
(4) 減価償却費相当額の算定方法				(4) 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				同左			
(5) 利息相当額の算定方法				(5) 利息相当額の算定方法			
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。				同左			
2. オペレーティング・リース取引				2. オペレーティング・リース取引			
未経過リース料				未経過リース料			
1年内 1,077,052千円				1年内 1,130,137千円			
1年超 8,417,503千円				1年超 7,666,845千円			
合計 9,494,555千円				合計 8,796,983千円			

(有価証券関係)

前事業年度(平成19年12月31日)及び当事業年度(平成20年12月31日)における子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成19年12月31日)	当事業年度 (平成20年12月31日)
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>繰延税金資産 (流動)</p> <p>未払事業税 107,071</p> <p>未払賞与 31,422</p> <p>未払事業所税 10,669</p> <p>前受営業負担金 40,294</p> <p>その他 3,999</p> <p>繰延税金資産 小計 193,457</p> <p>繰延税金負債 (流動)</p> <p>繰延ヘッジ利益 3,440</p> <p>繰延税金資産 (流動) の純額 190,017</p> <p>繰延税金資産 (固定)</p> <p>有形固定資産 551,891</p> <p>役員退職慰労引当金 68,172</p> <p>退職給付引当金 17,002</p> <p>会員権評価損 7,311</p> <p>前受営業負担金 103,799</p> <p>匿名組合投資損失 18,390</p> <p>その他 26,313</p> <p>繰延税金資産 小計 792,882</p> <p>繰延税金資産 (固定) の純額 792,882</p>	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>繰延税金資産 (流動)</p> <p>未払事業税 100,111</p> <p>未払賞与 33,941</p> <p>未払事業所税 12,392</p> <p>前受営業負担金 47,832</p> <p>出店中止損 38,538</p> <p>繰延ヘッジ損失 19,496</p> <p>その他 11,576</p> <p>繰延税金資産 小計 263,890</p> <p>繰延税金資産 (流動) の純額 263,890</p> <p>繰延税金資産 (固定)</p> <p>有形固定資産 752,539</p> <p>役員退職慰労引当金 74,969</p> <p>退職給付引当金 18,988</p> <p>関係会社株式評価損 284,941</p> <p>前受営業負担金 88,720</p> <p>繰延ヘッジ損失 37,181</p> <p>その他 23,590</p> <p>繰延税金資産 小計 1,280,931</p> <p>繰延税金資産 (固定) の純額 1,280,931</p>
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <p>法定実効税率 40.7</p> <p>(調整)</p> <p>同族会社の留保金課税 4.6</p> <p>住民税均等割等 0.5</p> <p>その他 0.0</p> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 45.8</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <p>法定実効税率 40.7</p> <p>(調整)</p> <p>同族会社の留保金課税 4.5</p> <p>受取配当金等永久に益金に算入されない項目 △0.4</p> <p>住民税均等割等 0.4</p> <p>その他 △0.5</p> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 44.7</p>

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)									
1株当たり純資産額	90,054円41銭	1株当たり純資産額	112,220円55銭								
1株当たり当期純利益金額	26,567円98銭	1株当たり当期純利益金額	27,123円39銭								
<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p> <p>当社は、平成19年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。</p> <p>なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の前事業年度における1株当たり情報については、以下のとおりとなります。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">前事業年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1株当たり純資産額</td> <td>65,774円15銭</td> </tr> <tr> <td>1株当たり当期純利益金額</td> <td>20,370円09銭</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		前事業年度		1株当たり純資産額	65,774円15銭	1株当たり当期純利益金額	20,370円09銭	<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>		<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>	
前事業年度											
1株当たり純資産額	65,774円15銭										
1株当たり当期純利益金額	20,370円09銭										
<p>潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。</p>											

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
当期純利益 (千円)	2,167,947	2,213,268
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	2,167,947	2,213,268
期中平均株式数 (株)	81,600	81,600

6. その他

(1) 役員の異動

該当事項はありません。

(2) 施行、受注及び販売の状況

① 施行実績

期別	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
事業部門の名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)
国内事業部門	5,601	6,352
海外事業部門	2,785	2,249
合計	8,386	8,601

② 受注状況

期別	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)	受注件数 (件)	受注件数残高 (件)
国内事業部門	6,292	3,797	7,003	4,448
海外事業部門	2,964	1,119	1,978	848
合計	9,256	4,916	8,981	5,296

③ 販売実績

期別	前連結会計年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
事業部門の名称	金額 (千円)	金額 (千円)
国内事業部門	24,297,048	27,931,476
海外事業部門	3,962,305	3,141,860
合計	28,259,353	31,073,336

(注) 金額には、消費税等は含まれておりません。